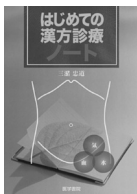


はじめての漢方診療ノート



著：三瀧 忠道

B5 頁144 2007年
定価3,360円(本体3,200円+税5%)
[ISBN 978-4-260-00452-7]医学書院刊

漢方についての初心者向けの講演会などで、「漢方を手早く使えるようになるにはどうしたらよいのでしょうか?」という質問をよく受ける。東洋の知と西洋の知は異なったパラダイム(思考の枠組み)であるから、あたかも囲碁の名人が、手早くチェスの名人になれないのと同様に、それなりの別の努力が必要である。

「学問に王道なし」という諺があるが、漢方修得に王道はない。しかし、ある高山の登頂をしようとした場合、装備はもちろんだが、正確な地図や案内書を持ち、コンパスを持参することは遭難しないための必須の要件である。この意味で、

「王道はある」かもしれない。

著者の三瀧忠道先生とは「千葉大学東洋医学研究会」で同じ師匠(藤平健, 小倉重成両先生)に師事し、富山医科薬科大学附属病院で「和漢診療科」を立ち上げた同志(嬉しいことに私が先輩)であるが、二年前に出版された『はじめての漢方診療・十五話』(医学書院)に続く、今回の「ノート」は、前著が「正確な地図」であるとする、本書が「地図の読み方と諸注意事項」と位置づけることができる。しかも自分自身で学び会得した事柄を記録するスペースが用意されている。

現代は情報化の時代であり、漢方についても情報が溢れている。そこで、私が提言したいことは、さまざまな情報に翻弄されるのではなく、「これと決めた地図と案内書」に沿って、まずは臨床実践の指針とするということである。『はじめての漢方診療・十五話』と『はじめての漢方診療ノート』は誠にこれに相応しい教材である。まず、「これと決めてよい」ものとし、推薦する次第である。